

高校における特別支援教育実践に関する文献的考察

下中村 武*・古田 弘子

Special Needs Education Practices Conducted in High Schools: A Review of the Literature

Takeshi SHIMONAKAMURA, Hiroko FURUTA

(Received October 1, 2014)

The objective of this study is to identify methods and content of special needs education in high schools and future tasks in the field, through a review of the literature. We analyzed methods and content of special needs education presently conducted in high schools; knowledge and experience on special needs education among teachers in high schools; and needs demonstrated by high school students with disabilities. Results revealed that: (1) Most high schools engaged in similar methods and content of special needs education, while other schools developed their own original methods and content. (2) The high school teachers had obtained knowledge of special needs education through special needs education/training including seminars, but most of them had only limited experience teaching students with disabilities. (3) Some students with disabilities recognized their needs, enabling teachers to teach effectively keeping these students' needs in mind. Research on methods of special needs education for students with disabilities other than developmental disabilities—and on needs demonstrated by students with disabilities—should be conducted in the future.

Key words : High School, Special Needs Education, Literature Review

I. 問題と目的

特別支援教育は、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるものである（文部科学省, 2007）。これまでの特殊教育との大きな違いは、①対象の障害に発達障害も含まれていること、②対象の障害のある生徒が在籍する全ての学校で実施されることである。

小・中学校では、特別支援学級や通常学級が障害のある児童生徒の教育を担ってきた。また、特別支援教育が実施されるようになってからは、小・中学校の通常学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査（文部科学省, 2012）が行われるなど、小・中学校において特別支援教育の推進が図られている。

一方、高等学校等進学率は98.4%（文部科学省,

2014）であることから、小・中学校において特別な教育的支援を必要としていた児童生徒が進学し、高校に在籍していると想定される。

高校における特別支援教育の動向と課題について、田部（2011）は、①近年の文部科学省や都道府県・政令指定都市教育委員会等の高校特別支援教育施策、②学界・当事者団体等における高校特別支援教育に関する論議や調査研究、③高校現場で取り組まれている発達障害等の特別な配慮を要する高校生への教育実践について整理している。田部（2011）は、①については、文部科学省の取り組みとして特別支援教育に関する通知や各種調査、中央教育審議会答申、また各都道府県・政令指定都市の取り組み、②については、高校における特別支援教育の調査研究等からの課題、③については高校現場で取り組まれている特徴的な特別支援教育実践について整理している。このことから、高校における特別支援教育に関する研究・実践は豊富に行われていることがうかがえる。

しかし、田部（2011）では、特別支援教育の実践に

* 熊本大学大学院教育学研究科

については特徴的な取り組みを整理するにとどまり、特徴的な取り組みも含めた高校全体の特別支援教育の支援方法及び内容については十分検討されていない。加えて、高校での特別支援教育を行うために重要と考えられる教員の特別支援教育に関する知識・経験や生徒本人のニーズについてはほとんど検討されていない。そのため、①高校における特別支援教育の方法及び内容、②教員の知識・経験、③障害のある生徒のニーズ、の3項目に焦点を当て、高校における特別支援教育上の課題について検討することで、特別支援教育を推進するための基礎資料が得られるのではないかと。

以上を踏まえ、本研究では、高校における特別支援教育に関する研究・実践について整理し、①高校における特別支援教育の方法及び内容、②今後の検討課題について明らかにすることを目的とする。

II. 方法

1. 文献の収集

本研究では、これまでの高校における特別支援教育に関する研究・実践について、CiNii (NII 論文情報ナビゲータ)、及び国立特別支援教育総合研究所データベースから文献を収集し、あわせて関連文献を収集し、文献的に考察する。

2. 分析の対象

収集する文献のうち、①高校における特別支援教育の方法及び内容、②教員の知識・経験、③障害のある生徒のニーズ、の3項目を分析の対象とし、これらからさらに検討する項目を抽出する。

III. 結果

高校における特別支援教育実践について検討した結果、①各高校で行われている共通の取り組み、②各高校で行われている取り組み、③発達障害のある生徒への支援の方法及び内容、④発達障害以外の障害のある生徒への支援の方法及び内容、⑤その他の支援の方法及び内容、⑥教員の知識・経験、⑦障害のある生徒のニーズ、の7点に分類し、Table 1～Table 7に示した。

第1に、各高校で行われている共通の取り組みとして、①校内委員会等の設置(活用)・校内の組織、②特別支援教育コーディネーター、③実態把握、④個別の指導計画・個別の教育支援計画、⑤巡回相談の実施、⑥研修等、⑦外部機関との連携・交流があげられた。第2に、各高校で行われている取り組みとして、①人的資源の活用、②学校設定教科、③会議、④教育相談、⑤生徒・保護者向け、⑥ソーシャルスキルトレーニング、⑦特別なコース・クラス、⑧入学試験時の配慮、

⑨就労支援、⑩その他、があげられた。なお、「その他」とは分類が困難であったものである。第3に、発達障害のある生徒への支援の方法及び内容として、①授業等での工夫、②授業以外での学習の支援、③学校生活の支援、④就労支援、があげられた。第4に、発達障害以外の障害のある生徒への支援の方法及び内容として、①視覚障害、②聴覚障害、③肢体不自由、④知的障害、があげられた。第5に、その他の支援の方法及び内容として、①授業等での工夫、②授業以外での学習の支援、③学校生活の支援、があげられた。第6に、教員の知識・経験として、①障害等の知識・理解、②障害児の教育・障害児との交流経験、③障害等の研修、があげられた。第7に、①生徒自身の認識、②保護者の認識、があげられた。

IV. 考察

1. 高校における特別支援教育の方法及び内容

高校における特別支援教育の方法及び内容としては、発達障害のある生徒への支援の方法及び内容(Table 3より9件)と、その他の支援の方法及び内容(Table 5より16件)が、発達障害以外の障害のある生徒への支援の方法及び内容(Table 4より5件)よりも多く、高校における特別支援教育実践は、そのほとんどが発達障害等のある生徒を対象としていることが明らかとなった。なお、Table 5はその他の支援の方法及び内容についての文献を分類しており、支援の対象を発達障害のある生徒に限定していなかったり、すべての生徒のための工夫として記述されていたものである。ただし、内容及び方法は発達障害のある生徒への支援の方法及び内容とほとんど変わらない。以上から、高校における特別支援教育は、発達障害のある生徒のために支援を行うということと、すべての生徒が授業を理解するために必要な工夫を行っていると考えられる。この点について、田部(2011)は、支援対象を特別な配慮・支援を必要とする生徒に限定せず、すべての生徒への「学習と発達の権利保障」のもとに行う「ユニバーサルデザイン教育」のあり方を探り、その構築をはかることが課題であると指摘している。

一方、Table 4は、発達障害以外の障害のある生徒への支援の方法及び内容についての文献を分類したものである。視覚障害が1例(西原・佐川・猪平, 2009)、聴覚障害が1例(立石・高橋, 2004)、肢体不自由が1例(松浦・城戸・田丸, 2008)のように身体障害のある生徒への実践は乏しいことが明らかとなった。また、知的障害のある生徒については、Table 2の「特別なコース・クラス」の知的障害者を対象としたコースの設置(寺園, 2007)やTable 4の「知

Table 1 各高校で行われている共通の取り組み

項目	発行年	著者	内容	
校内委員会等の設置(活用) 校内の組織	2007	加藤正和	カウンセリング委員会の活用	
		宮地みち子	校内委員会の設置	
	2008	福本直人	校内委員会の設置・活用	
		岩藤ら	特別支援委員会の活用、コーディネーターが決定した支援対象者に関する支援チームの活動	
	2009	埼玉県公立高校 教育相談部	教育相談部の活用	
		佐藤忍	特別支援教育推進委員会	
	2010	滋野哲秀	教育相談協議会の活用	
		船橋聖一	特別支援教育推進委員会の開催	
	2011	島貫学	既存の組織である教育相談協議会の活用	
		上西祐子	教育相談委員会の活用(個別の指導計画を立案し、全教職員共通理解のもとに指導体制をとっている)	
	特別支援教育 コーディネーター	2007	上好功	支援委員会の活用
			金子直子	適応支援委員会の取り組み(場合によっては各分掌と連携)
		2011	牧伸裕	校内委員会の設置(教育相談委員会の改組)、研究・モデル事業推進委員会の設置(ケース会議、個別の支援計画を協議する委員会として機能)
高木伸子			相談部の活用、相談部と進路指導部の連携による進路指導、生徒の問題行動に対する相談部と生徒指導部の連携	
2013		江藤敏行	生徒を支援するための校内の組織作り	
		生駒忠夫	生徒支援委員会の設置・活用	
2007		元嶋啓子	校内体制作りの工夫、校内体制の改善	
		加藤正和	特別支援教育コーディネーターの指名	
2010		宮地みち子	特別支援教育コーディネーターの指名	
		上西祐子	特別支援教育コーディネーターの複数制	
2011		牧伸裕	特別支援教育コーディネーターの指名	
		加藤正和	授業参観、生徒面接、保護者面接、心理検査の実施などによる情報収集	
実態把握		2007	高井麗子	①心理検査の実施、②中学校訪問による情報収集、③スクリーニングチェックの実施、④中高連携による指導の引き継ぎ、⑤教職員からの情報収集、⑥数学の基礎理解度チェック
	福本直人		スクールカウンセラーによる指導助言による生徒の実態把握(発達障害の状況、教育的ニーズ)	
	2008	滋野哲秀	勤務校版「アセスメント票」と「気付きシート」	
		船橋聖一	情報交換会、クラス担任からの生徒に関する情報の吸い上げ	
	2010	有馬敏男	心理検査を実施し、支援対象生徒の抽出後、「生徒実態把握シート」の実施	
		林教子	生徒の実態把握	
	2011	宮城・松尾	①「月3日以上欠席者の調査」、②「授業時数の3分の1以上の欠課者の調査」の毎月調査	
		島貫学	情報収集(担任会や分掌連絡会、教科担任会等における教職員の情報交換)	
	2012	高木伸子	校内委員会と学年会の連携による生徒の実態把握(①職員から見た生徒の実態、②スクールカウンセラーからみた実態、等)	
		初谷・熊谷	情報交換会	
	2013	江藤敏行	巡回相談を活用した生徒の実態把握	
		元嶋啓子	「気になる生徒」に関する実態把握	
	2010	林教子	個別の指導計画の作成	
宮城・松尾		個別の指導計画の作成		
2012	初谷・熊谷	個別の指導計画・個別支援計画の作成		
	加藤正和	巡回相談の実施		
2007	宮地みち子	巡回相談の実施(臨床心理士の来校)		
	佐藤忍	臨床心理士による巡回相談		
2008	滋野哲秀	巡回相談の利用		
	宮地みち子	校内研修等の実施		
研修等	2007	初谷和行	校内研修会の実施	
		岩藤ら	校内研修会の実施、特別支援教育講演会の開催、外部の研修会への参加、先進校の視察	
	2008	埼玉県公立高校 教育相談部	発達障害に関する校内研修の実施	
		佐藤忍	校内研修会	
	2009	滋野哲秀	教職員研修の実施	
		船橋聖一	研修会の実施	
	2010	有馬敏男	特別支援教育や発達障害、ユニバーサルデザインの授業等に関する研修の実施	
		林教子	研修会の開催	
	2011	宮城・松尾	研修会や講演会などの企画・実施	
		山口比呂美	特別支援教育に対する職員の理解をより一層深めるための啓発・研修	
	2013	金子直子	職員研修の実施	
		高木伸子	研修会	
	2007	江藤敏行	発達障害や特別支援教育に関する教員研修	
加藤正和		特別支援学校との連携		
2008	宮地みち子	地域の特別支援学校からの支援		
	福本直人	各関係機関との連携、ハローワーク等と連携した就労支援に関する協議、北海道内外の高校とのさらなる実践交流		
2010	埼玉県公立高校 教育相談部	外部機関との連携		
	林教子	拠点校との連携		
2011	南方真治	外部機関との連携		
	山口比呂美	関係機関との連携強化		
2013	金子直子	外部機関との連携		
	江藤敏行	地域等と連携した外部支援機関との連携		
2013	元嶋啓子	関係機関との連携		

Table 2 各高校で行われている取り組み

項目	発行年	著者	内容	
人的資源の活用	2007	高井麗子	学習支援員による支援, 相談支援員による支援	
	2008	埼玉県公立高校 教育相談部	スクールカウンセラーの活用	
		滋野哲秀	学習サポートアシスタント	
		林教子	支援員(義務教育)との連携	
	2010	大田一昭	地域支援員の配置, 地域資源の活用	
		山口比呂美	スクールカウンセラーとの連携	
2012	初谷・熊谷	支援員による支援		
2013	生駒忠夫	学習支援員等の活用		
学校設定教科	2013	生駒忠夫	学校設定教科(心理学Ⅰ・Ⅱ等)の授業実施	
		元嶋啓子	学校設定教科「キャリアデザイン」の取り組み	
		佐原智行	義務教育段階の基礎的内容を、個々の生徒が理解の程度に応じて学び直すことができる学校設定教科「カルチベーション」の設定	
会議	2007	谷口藤雄	教育相談会議・学習支援研究会の活用	
	2008	初谷和行	特別支援教育検討会の実施	
	2009	谷口藤雄	教育相談会議における共通理解の深化	
	2010	上西祐子	授業担当者会議の開催	
	2012	初谷・熊谷	支援教育検討会の実施	
教育相談	2008	初谷和行	教育相談の実施	
		福本直人	教育相談室の設置	
		上西祐子	教育相談室の活用	
2010	南方真治	相談室の活用		
生徒・保護者向け	2012	初谷・熊谷	教育相談の実施(スクールカウンセラーの配属)	
		福本直人	周囲の生徒の理解を促進するためのHR実践, 保護者向け研修会の実施	
		山口比呂美	一般生徒や保護者等に対して特別支援教育への理解を深めるための啓発	
		米山伊織	保護者への取り組み(①担任への要望用紙の配付, ②保護者向けセミナー), 生徒への取り組み(①障害理解教育, ②各種セミナー, ③自閉症スペクトラムの移行アセスメントプロフィールによるアセスメントの実施)	
ソーシャルスキル トレーニング	2008	福本直人	実習や少人数指導の場面を生かしたソーシャルスキルに関する指導方法等の検討	
	2012	初谷・熊谷	ソーシャルスキルトレーニングの実施	
	2013	佐原智行	農業実習を通じたソーシャルスキルトレーニングの実施	
特別なコース・クラス	2007	寺園典人	知的障害者が対象の「共生コース」の設置, 「共生コース」における①校外実習, ②産業現場等における実習	
	2008	森田修示	発達支援クラス(基本的には一般クラスで他の生徒と同様に授業を受け, 問題が生じた時に戻ることが可能なシュルター的な機能と個別的な交換機能がある)による発達障害のある生徒の受け入れ	
入学試験時の配慮	2010	宮城・松尾	入学試験の受験時の配慮(①体調不良の別室受験, ②聴力の申告によるリスニング試験の座席配慮)	
就労支援	2010	南方真治	就労支援	
		上好功	就労への取り組みとしての職業準備実習	
		山口比呂美	発達障害のある生徒に対する就労支援の方策の研究	
その他	2010	有馬敏男	年度当初に①授業環境づくり, ②授業での工夫について職員会議で確認し, 統一して実践	
		林教子	校内での情報共有	
		宮城・松尾	教務課的な配慮	
		宮城・松尾	大学生や教員と放課後に自由に語れる場としての「お茶会」の試行	
		上西祐子	全体への支援(①周囲の生徒や保護者への啓発, ②Q-Uアンケートを活用した学級づくり, ③仲間作りを意図したLHRの充実, ④「自主勉強会」による学習支援)	
		上好功	生徒が必要に応じて利用できる教室としての特別支援教室の活用(抽出授業, 放課後自立活動の実施)	
		山口比呂美	担任と保護者の連絡帳交換	
		山口比呂美	保護者との定期的な面談	
		山口比呂美	生徒との日常面談	
		山口比呂美	教科等の課題をやり遂げさせる課外指導	
授業等での工夫	2010	金子直子	入学前の出身中学校訪問, 希望する保護者と本人への「入学前相談」	
		大田一昭	書籍をもとにしたLD・ADHDなどの生徒に対する指導のポイントを踏まえた指導	
		上西祐子	少人数授業の実施, グループ学習の取り入れ, 教具の工夫, 授業の構造化(ユニバーサルデザイン化)	
		上西祐子	チームティーチング等の形態による学習支援	
授業以外での学習の支援	2013	佐原智行	①1週間のスケジュールの提示によって学習への見通しを持てるようにすること, ②言語指示をやさしい言葉で簡潔にゆっくりはつきり伝えること, ③一度で指示を理解できない場合は指示を繰り返すこと, ④全体指導や集団指示を理解できない時は個別に伝えること, ⑤板書の際は文字の大きさ, 量, 色を意識し, キーワードのみを書くこと, ⑥あらかじめ記入しやすいプリントを用意すること, ⑦絵や図, 文字やモデルを補助的に用いること, ⑧文章題を解く時にキーワードに注目させること, ⑨作文を書く時に写真や資料などを手がかりとして与えること, ⑩メモを活用すること	
		2007	和井田節子	補習の実施(内容を図示しながら, 言葉で内容理解を促す等), 試験問題文の工夫(問題文をできるだけ平易な言葉で内容理解を促す等), 試験後のケア(電子辞書などでハンディを補った場合の点数を参考点として記録する)
		2010	大田一昭	補習の充実
学校生活の支援	2010	和井田節子	生徒専用のルールブックの作成	
		上西祐子	保護者・本人を対象とした継続的なカウンセリング, 毎日の「居場所作り」, 家庭訪問による「出前カウンセリング」, 段階的登校による支援	
就労支援	2010	上西祐子	専門機関との連携による就労支援	

Table 3 発達障害のある生徒への支援の方法及び内容

項目	発行年	著者	内容
授業等での工夫	2007	高井麗子	書籍をもとにしたLD・ADHDなどの生徒に対する指導のポイントを踏まえた指導
	2010	大田一昭	少人数授業の実施, グループ学習の取り入れ, 教具の工夫, 授業の構造化(ユニバーサルデザイン化)
		上西祐子	チームティーチング等の形態による学習支援
	2013	佐原智行	①1週間のスケジュールの提示によって学習への見通しを持てるようにすること, ②言語指示をやさしい言葉で簡潔にゆっくりはつきり伝えること, ③一度で指示を理解できない場合は指示を繰り返すこと, ④全体指導や集団指示を理解できない時は個別に伝えること, ⑤板書の際は文字の大きさ, 量, 色を意識し, キーワードのみを書くこと, ⑥あらかじめ記入しやすいプリントを用意すること, ⑦絵や図, 文字やモデルを補助的に用いること, ⑧文章題を解く時にキーワードに注目させること, ⑨作文を書く時に写真や資料などを手がかりとして与えること, ⑩メモを活用すること
授業以外での学習の支援	2007	和井田節子	補習の実施(内容を図示しながら, 言葉で内容理解を促す等), 試験問題文の工夫(問題文をできるだけ平易な言葉で内容理解を促す等), 試験後のケア(電子辞書などでハンディを補った場合の点数を参考点として記録する)
	2010	大田一昭	補習の充実
学校生活の支援	2010	和井田節子	生徒専用のルールブックの作成
		上西祐子	保護者・本人を対象とした継続的なカウンセリング, 毎日の「居場所作り」, 家庭訪問による「出前カウンセリング」, 段階的登校による支援
就労支援	2010	上西祐子	専門機関との連携による就労支援

Table 4 発達障害以外の障害のある生徒への支援の方法及び内容

項目	発行年	著者	内容
視覚障害	2009	西原・佐川猪平	盲学校から高校への支援内容は①転学や進路・就労についての相談・助言、②障害の状況などの実態把握・評価、③学習面・生活面についての相談・助言では多い順に、補助具の使い方、明るさへの配慮、文字の読み書き、文具類の紹介、黒板への配慮、健康・安全管理等
聴覚障害	2004	立石・高橋	高校で学ぶ聴覚障害のある生徒が受けている授業において継続的に支援を行い、支援方法について検討
肢体不自由	2008	松浦・城戸田丸	特別支援学校の教員との連携による支援（①高校において肢体不自由のある生徒に対して特別支援学校の教員が学習支援を実施、②特別支援学校において肢体不自由のある生徒に対して高校教員と特別支援学校教員が共同で学習指導を実施）
知的障害	2007	加納明彦 ^{注1)}	知的障害のある生徒に対して提供する教材が、他の生徒とかけ離れておらずコミュニケーションの手がかりがつかめるようなものにならなければならない ①「口頭試問等の形式のテスト」など、個々に応じて工夫し変更することも可能にしている
	2008	加納明彦 ^{注1)}	英語・数学は個別の授業で行うこと、サポート教員が付き添わない授業は選択授業の中で個別の補充授業を設けていること、実習を伴う授業や情報基礎等にはチームティーチャーとしてサポート教員を適宜配置していること、選択授業の中で「学校設定科目」として障害のある生徒向けの科目の設定 「数学Ⅰ」の個別授業の実践（プリントを作る時に留意したこととして、①プリント1枚には1つの課題に絞り、自分でも繰り返しできるようにすること、②プリントの答え合わせは解答例を見ながら自己採点を基本とするものにする、③目標への到達が時間的に速くならないようにすること）

Table 5 その他の支援の方法及び内容

項目	発行年	著者	内容
授業等での工夫	2007	谷口藤雄 山口比呂美	①座席の位置や机の位置の配慮、②「取り出し」授業の実施 ①板書の色チョークのみ写すこと、②板書事項のプリント、③クイズ形式の発問
	2008	佐藤忍	①ワークシートを使用し、授業に見通しを持ちやすくする工夫、②説明に図やイラスト等を多くすること、③板書しながら生徒に話しかけることがないような配慮
	2009	谷口藤雄	①新しいことやこれから起きることの丁寧な説明、②教材や教具の工夫、③多様な宿題、④座席配置、⑤黒板の見え方の工夫、⑥教室の周りに集中を妨げる物を置かないこと、⑦簡素な教室と机にすること、⑧教室の掲示物を工夫すること、⑨書く時間を確保すること
	2010	有馬敏男 宮城・松尾	①チョークは白・黄色をメインに使い、赤を補助的に使うこと、②教科書や問題集のどこをやっているのかを板書して提示すること、③「字は大きめに、行間は広めに」を意識すること、④「この時間のかをどこまで行うか」を授業の冒頭に確認すること ①授業の流れをあらかじめ提示すること、②板書の仕方の工夫、③机間巡視しながら、生徒の様子や理解度を確認すること、④プロジェクターで映像を取り入れながら行うこと、⑤生徒応答システムの試行
	2011	金子直子 牧伸裕	特別支援学校の教員を講師に迎えた研修で学んだ①視覚支援、②教授法の実践 ①3学年の選択科目等では少人数授業やチームティーチングによる授業の展開、②中学校の既習内容を取り入れた「学び直し」、③学習支援カードを利用した個に応じた指導・支援の工夫
授業以外での学習の支援	2013	生駒忠夫 上西祐子	①板書の配慮（色チョークは白や黄色を基調に、なるべく3色以内とし、ポイントとなるところは囲む等）、②見通しを持たせる配慮（授業の流れを提示する等）、③プリントやテストの配慮（文字を大きくする等）、④指導形態・教具等の工夫（指示を簡潔にする等）、⑤フラッシュカードの活用、⑥パワーポイント等の活用、⑦テストにおける配慮（情緒が不安定な生徒の別室受験等）、⑧評価における配慮（書くことができない者には口頭で回答させる、プリント提出へ読み替える等） ①習熟度別授業、②少人数授業、③1年生の国語・数学・英語については学び直し
	2007	高井麗子 谷口藤雄	①通常の学習指導に加えて、能力に配慮した内容の指導を行うこと、②通常の教科指導では今後学力の向上が難しいと思われる生徒に対し、さらに詳しい検査を行い、専門家のアドバイス等を求めながら、学習到達度に配慮した指導を行うこと ①放課後の補習、②基礎学力充実・補充（数学（算数）、漢字学習のプリントによる学習）
	2010	有馬敏男	①掲示物は4ヶ所をきちんと留めること、②黒板には授業以外のことは書かないこと、③連絡はホワイトボードに書くこと、④ホワイトボードに書く時は青色をメインに使うこと、⑤
学校生活の支援	2007	高井麗子	①生徒の学習内容に配慮しながら、経過を観察すること、②カウンセリングを主体とした指導を行い、学校・家庭、その他への不適応状態を緩和させること、
	2010	上好功	①時間割の変更があると口頭だけでなく、カードに記入して本人に渡す「時間割変更カード」、②生徒自らの体の状態を振り返ることができるようになる「体調カード」、③教室で不安定になり、自分をコントロールすることが難しくなった時のための「退室カード」、④一日の自分について振り返ることができるようにする「振り返りノート」、⑤自分の気持ちを表現し、相手の気持ちを理解し、自分の気持ちを言語化する「表情カード」、⑥見通しを持って混乱することなく集合場所にたどり着けるための「写真入りしおり」・「支援カード」、といった個別の支援グッズの使用
2013	上西祐子	集団が苦手な生徒のための居場所作り	

Table 6 教員の知識・経験

項目	発行年	著者	内容
障害等の知識・理解	2007	原・小方	特別支援教育の内容についての知識を持っている教員は約8割、発達障害についての知識を持っている教員は約7割
	2011	宮前・半澤	大学・大学院での特別支援教育の科目の受講経験がある教員は1割程度 「LDの理解」の割合について、①学級担任は2割程度（2007年・2009年・2011年いずれも）、②養護教諭は4割程度（2007年）、5割程度（2009年）、6割程度（2011年）、③特別支援教育コーディネーターは4割程度（2007年）、6割程度（2009年）、6割程度（2011年）、④進路指導主事は2割程度（2007年）、3割程度（2009年）、4割程度（2011年）
	2012	大杉・岩切肥後	「ADHDの理解」の割合について、①学級担任は2割程度（2007年・2009年・2011年いずれも）、②養護教諭は4割程度（2007年）、6割程度（2009年）、6割程度（2011年）、③特別支援教育コーディネーターは3割程度（2007年）、6割程度（2009年）、7割程度（2011年）、④進路指導主事は2割程度（2007年）、3割程度（2009年）、3割程度（2011年）
障害児の教育・障害児との交流経験	2014	日野・熊谷 ^{注2)}	「HFAの理解」の割合について、①学級担任は2割程度（2007年・2011年いずれも）、②養護教諭は6割程度（2007年・2011年いずれも）、③特別支援教育コーディネーターは3割程度（2007年）、6割程度（2009年）、4割程度（2011年）、④進路指導主事は1割程度（2007年）、2割程度（2009年）、3割程度（2011年） 在籍校に特別支援教育に関わる免許状保持者（特別支援学校・盲学校・聾学校・養護学校教諭免許状等）がいるのは、①学力重点校では1割程度、②総合学科校では2割程度、③全日制その他校では2割程度
	2011	宮前・半澤	特別支援学校（特別支援学級）での指導経験がある教員の割合は1割程度
	2014	日野・熊谷 ^{注2)}	特別支援教育（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室等）を担当した経験がある教員は、①学力重点校が1割程度、②総合学科校が2割、③全日制その他校が2割程度 発達障害のある（疑われる）生徒の担任をした経験がある教員は、①学力重点校が4割程度、②総合学科校が5割程度、③全日制その他校が4割程度
障害等の研修	2007	原・小方	障害のある生徒との関わり経験について「関わったことのある」教員の割合は6割 校内現職研修、初任者研修・10年経験者研修・20年経験者研修（教育委員会主催）、教育センター主催の研修、その他などへの研修参加経験のある教員の割合は2割程度
	2010	喜井智章	養護教諭のうち発達障害に関する研修の受講経験がある教員は6割程度
	2010	知念・田中	コーディネーターの在籍校で発達障害に関する研修があった高校の割合は6割程度
2011	宮前・半澤	勤務経験校での職員研修、研修機関・外部機関での研修参加経験のある教員の割合は4割程度	

Table 7 障害のある生徒のニーズ

項目	発行年	著者	内容
生徒自身の認識	1999	伊東・四日市	高校で学ぶ聴覚障害のある生徒に対して、高校の学習環境に関する質問紙調査を実施（生徒は受けやすい授業と受けにくい授業を認識している、授業で行ってほしい配慮を認識している等）
	2004	立石・高橋	高校で学ぶ聴覚障害のある生徒本人2名にアンケートを実施（生徒は授業中に授業を理解できない状態であり、自学自習によって教科書や板書という限られた情報から授業を理解している）
	2008	高橋・内野	発達障害を有する本人がどのような困難に直面し、いかなる支援を求めているかについて、発達障害のある高校生（在籍・既卒）に質問紙調査を実施（学習面での学校・教師への要望：①先生がもう1人授業に入ってほしい、②授業時間以外にも教えてほしい、③別問題やプリントを作ってほしい、④別の場所で学習したい、⑤個別で教えてほしい、⑥どのように整理して記憶したらよいのか、その方法を教えてほしい、⑦ゆっくり教えてほしい、等）
			同上の調査（学校生活・対人関係面での学校・教師への要望：①1人になって落ち着ける場所がほしい、②いじめをやめさせてほしい、③自分の話をじっくり聞いてほしい、④周囲が自分のことを理解するようにしてほしい、等）
	2009	高橋・内野 田部	同上の調査（複数選択による回答）（本人が高校生活に求めることとして、①「仲のいい友達がいれば」が一番多く、その他順番に、②卒業後の自分にあった進路をじっくりと見つけたい、③勉強が分かるように教えてほしい、④同じ課題を持つ仲間と交流したい、⑤部活動に参加したい、⑥卒業するまで学校に通いたい、⑦自分以外にも「自分と同じような考えをする」人がいるということだけでも知りたかった、⑧自分の障害に気づいて知らせてくれる人がほしかった、等）
2011	Tabe & Takahashi	発達障害や発達障害を併せ持つ知的障害等と診断・判定された高校生以上の青年・成人当事者に対して質問紙調査を実施（①書字に困難があったので、レポート等、PCでの作業を認めてほしい、②同じ学校に自分と同じような生徒がたくさんいて、皆困っているのだから学校として積極的に支援してほしい、③教科の学習で分からないことがある時に丁寧に教えてほしい、④不登校の生徒の対応ばかりしていたので、もっと他の事で苦しむ生徒（自分を含む）の対応も親身になってほしい、⑤教室で静かにするように皆に言ってほしい）	
保護者の認識	2008	高橋・内野	①ノートを取るのが難しかったので、PCでの作業を許可してほしい、②自分と同じような困難のある生徒が多くいたので、このような生徒に積極的に支援をしてほしい、③教科の授業が分からない時にもっと入念に教えてほしい、④教室では静かにするように他の生徒に言ってほしい
	2009	飯塚・飯塚	同上の調査（①学校で子どもの役割を作してほしい、②入学時に障害を説明したが、LDを十分に理解してもらえなかった、等）
		ミナミアイコ	親として高校に望むこと：①保護者との連携、②教師間の連携、③活動の場と役割を与えること、④子どもの理解、⑤卒業後の学びの場の整備
	2011	Tabe & Takahashi	「発達障害のある人にとって、有意義な高校生活を送るのに必要だ」と思うこと：①落ち着ける場所（著者の場合、保健室）、②悩みや疑問を親身になって聞いてくれ、助言してくれる大人（著者の場合、保健室の先生）、③励ましてくれるクラスメイトや友達、④自分を表現できる場所（著者の場合、クラブ活動）
	2013	岩田吉生	発達障害や発達障害を併せ持つ知的障害等と診断・判定された高校生以上の青年・成人当事者の保護者に質問紙調査を実施（①学級担任をはじめ先生方に障害について理解や知識を持ってほしい、②心のケア、③本人の興味・関心、特性を伸ばせるような、もっと専門的な教育をしてほしい、④いじめ対策、等）
2011	Tabe & Takahashi	①学級担任やその他の教員の障害に対する知識・理解、②複数の教員による指導、③宿題等、生徒に合った適切な学習課題、④心のケア、⑤生徒が興味を持てたり、自分の特性を生かせるような専門的な教育、⑥いじめ対策	
2013	岩田吉生	高校で学ぶ聴覚障害のある生徒の保護者に対して、質問紙調査を実施（学校生活全般の配慮として「職員会議等での教職員への難聴理解の指導」の要望が8割、教員の配慮として「ゆっくりと、前を見て話す」、「板書を多くする」等の要望が7割以上）	

的障害」の加納（2007）、加納（2008）のように、知的障害のある生徒の受け入れ制度のある高校で実践が行われている状況であることが明らかとなった。

2. 今後の検討課題

今後の検討課題について述べる。教員の知識・経験についてはいくつか調査が行われているものの、特別支援教育や障害等について「知っているかどうか」、「説明できるかどうか」という調査基準が用いられていた（Table 6の原・小方，2007；大杉・岩切・肥後，2012）。そのため、用語の知識の有無に関する自己判定に限定される傾向があり、特別支援教育や障害等の概念、法制度、障害特性、生徒の支援方法、学校運営、学級運営等、幅広い項目について、実際にどの程度の知識を有するかについて明確にされていない。一方、教員の知識・経験についての調査方法の項目として、大学などで特別支援教育の科目を受講した経験や障害等の研修の受講経験等（Table 6の原・小方，2007；喜井，2007；知念・田中，2010；宮前・半澤，2011）は、特別支援教育や障害等の知識に結びつくと言えよう。そのため、今後の検討課題として、教員の特別支援教育や障害等に関する知識の程度について測定できるような質問内容の設定と、大学などでの特別支援教育の科目の受講経験等の経験に関する質問内容の設定か

ら、教員の特別支援教育や障害等に関する知識・経験について明らかにする必要があるだろう。

田部（2011）は、従来から身体障害または視覚・聴覚障害の生徒には必要な配慮や指導内容・指導方法の工夫がなされてきたが、今後は発達障害のある生徒に対してどのような配慮や指導上の工夫がなされるかが、特別支援教育との関係で問われると指摘している。しかしながら、本研究で発達障害以外の障害のある生徒に関する研究・実践は、高校に限定すれば限られていることが明らかになった。むしろ、発達障害のある生徒に関する研究・実践と比較して、高校で学ぶ発達障害以外の障害のある生徒に関する研究・実践が少ないといえる実態がある。このことから、発達障害以外の生徒への支援に向けて、研究・実践を行うことが必要であろう。

V. 要約

本研究では、高校における特別支援教育に関する研究・実践について整理し、①高校における特別支援教育の方法及び内容、②今後の検討課題について明らかにすることを目的とした。研究・実践の整理に際しては、①高校における特別支援教育の方法及び内容、②

教員の知識・経験、③障害のある生徒のニーズ、に焦点を当て、検討を行った。その結果、①高校における特別支援教育の方法及び内容については、各高校において共通して行っている取り組みと、各高校において独自に行っている取り組みがあることが明らかとなった。②教員の知識・経験については、教員は特別支援教育に関する知識を研修から得ており、実際に障害のある生徒の教育に携わった経験や、障害のある生徒との交流の経験はわずかであることが明らかとなった。③障害のある生徒のニーズについては、生徒によっては自らのニーズを具体的に認識している者がいることから、そのニーズを踏まえることで、教員の生徒に対する十分な支援につながる可能性が示唆された。今後の検討課題としては、①高校における発達障害以外の障害のある生徒に対する支援のあり方、②障害のある生徒本人のニーズ認識の把握、があげられた。

注

- 1) 大阪府教育委員会(2006)は、知的障害のある生徒の高等学校受け入れに係る調査研究を実施し、①自立支援推進校、②共生推進モデル校、による取り組みを進めている。なお、①自立支援推進校とは高等学校が設置している学科にあわせて「知的障害生徒自立支援コース」を設置して、生徒の教育的ニーズを把握し、必要な支援を行いながら、「共に学び、共に育つ」教育を推進するものである(大阪府教育委員会, 2006)。また、②共生推進モデル校とは高等支援学校の生徒が日々高等学校に通い、高等学校の教育を受けるモデル研究を行うものであり、両校の教職員が協働して生徒の教育的ニーズを把握し、必要な支援を行いながら「共に学び、共に育つ」教育を推進することとしている(大阪府教育委員会, 2006)。
- 2) 日野・熊谷(2014)は、高校を、①学力重点校、②総合学科校、③全日制その他校、に分類している。学力重点校とは、学力指導・進学指導に重点を置いた高等学校、総合学科校とは、全日制総合学科単独の高等学校、全日制その他校とは、全日制課程のある①、②以外の高等学校、である(日野・熊谷, 2014)。

文献

- 有馬敏男(2010)高等学校における、学校生活支援・就労支援の取り組み－高等学校における発達障害支援モデル事業の取り組みを通して－。特別支援教育研究, (634), 16-18.
- 江藤敏行(2013)高等学校における進路実現と自己肯定感を高める生徒支援の取組。特別支援教育, (49), 40-43.
- 原理代・小方朋子(2007)高等学校における特別支援教

育に対する理解－高等学校教員に対するアンケート調査の分析を中心に－。香川大学教育実践総合研究, 14, 31-40.

- 初谷和行(2008)本校の特別支援教育の取り組みの現状と課題。研究紀要, (45), 29-34.
- 初谷和行・熊谷恵子(2012)高等学校における特別支援教育の実践－三次的援助サービスを中心に－。筑波大学学校教育論集, 34, 19-29.
- 林教子(2010)発達障害及び学習障害に対する教育支援の在り方－高等学校現場体験者としての提言－。早稲田教育評論, 24(1), 133-145.
- 日野雅子・熊谷恵子(2014)高等学校における発達障害のある生徒への配慮に関する調査研究。LD研究, 23(3), 257-271.
- 福本直人(2008)高等学校の特別支援教育を推進するにあたっての管理職の役割～文科省指定「高等学校における発達障がい支援モデル事業」の中間報告から～。全国高等学校教頭・副校長会総会及び研究協議大会収録, 47, 51-53.
- 船橋聖一(2009)どう考え、何を大事にし、どう支援するのかを交流する。月刊学校教育相談, 23(3), 24-31.
- 生駒忠夫(2013)高等学校における発達障害のある生徒への指導・支援の充実－わかる授業の工夫と配慮。特別支援教育, (49), 36-39.
- 伊東靖雄・四日市章(1999)通常の学級における聴覚障害高校生の学習環境。聴覚言語障害, 28(3), 151-162.
- 岩藤英司・金城啓一・川角博・岸谷正彦・坂井英夫・菅野晃・塚越潤・宮城政昭・安井崇・吉野稔・若宮知佐(2008)高等学校における発達障害支援モデル事業の取り組み－本校における特別支援教育の体制作り－。東京学芸大学附属高等学校紀要, 45, 101-114.
- 岩田吉生(2013)高等学校に在籍する聴覚障害児の保護者の教育的ニーズに関する調査－入学前の要望・教育支援の現状・今後の要望に関する比較検討－。日本特殊教育学会第51回大会発表論文集, P5-C-7.
- 知念幸人・田中敦士(2010)高等学校で発達障害の特徴を有する生徒に対する就労支援の実態と課題～沖縄県内の高等学校に対する質問紙調査から～。琉球大学教育学部紀要, 77, 145-152.
- 金子直子(2011)社会に巣立つ生徒の姿を思いながら－高等学校の果たす役割－。現代のエスプリ, (529), 92-103.
- 加納明彦(2008)後期中等教育における知的障害のある生徒の『学習活動の共生』に関する研究－大阪府の自立支援推進校における教育課題の実践的検証－。大阪教育大学大学院教育学研究科修士論文。
[オンライン <http://ir.lib.osaka-kyoiku.ac.jp/ds/pace/handle/123456789/1730>] 2014.9.16.
- 加納明彦(2007)高校段階での自立と学習活動を支える－大阪の自立支援推進校の取り組み－。特別支援教育研究, (603), 20-23.
- 加藤正和(2007)高校の特別支援教育って具体的に何を

- するの？. 月刊学校教育相談, 21 (11), 30-33.
- 牧伸裕 (2011) ユニバーサルデザインによる教育－「高等学校における発達障害支援モデル事業」を終えて－. 特別支援教育研究, (641), 24-27.
- 松浦孝明・城戸宏則・田丸秋穂 (2008) 高等学校に在籍する肢体不自由のある生徒に対する学習支援. 筑波大学特別支援教育研究, 3, 13-18.
- 南方真治 (2010) 高校における特別支援教育－校内外の連携と就労支援について－. 日本教育, (392), 18-21.
- 宮城政昭・松尾直博 (2010) 高等学校における特別支援－個々のニーズに即した支援－. LD 研究, 19 (3), 228-230.
- 宮地みち子 (2007) 東京都立世田谷泉高等学校における特別支援教育の実践と課題. 特別支援教育研究, (603), 24-27.
- 宮前理・半澤万里 (2011) 高等学校における特別支援教育に対する教員の意識と関心について. 宮城教育大学紀要, 46, 231-240.
- 文部科学省 (2014) 学校基本調査－平成 26 年度 (速報) 結果の概要－.
- 文部科学省 (2012) 「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」調査結果.
- 文部科学省 (2007) 特別支援教育の推進について.
- 森田修示 (2008) 支援体制の構築と諸問題. 月刊生徒指導, 38 (11), 27-29.
- 元嶋啓子 (2013) 高等学校における特別支援教育体制の充実強化. 特別支援教育, (49), 24-27.
- 西原裕哉・佐川匠・猪平眞理 (2009) 盲学校 (視覚特別支援学校等) における視覚に配慮を必要とする高校生への教育支援について－平成 20 年度の実態調査から－. 日本特殊教育学会第 47 回大会発表論文集, P2-4.
- 大阪府教育委員会 (2006) 知的障害のある生徒の高等学校受入れに係る調査研究最終報告. [オンライン <http://www.pref.osaka.lg.jp/attach/4247/00000000/shusei%20chousakenkyusaisyu.pdf>] 2014.9.29.
- 大杉成喜・岩切昌大・肥後祥治 (2012) P 県の高等学校教員の特別支援教育に対する意識について－経年調査を通して－. 熊本大学教育学部紀要人文科学, 61, 145-152.
- 大田一昭 (2010) 高等学校における特別支援教育－望月高等学校特別支援教育の取り組み－. LD 研究, 19 (3), 241-243.
- 佐原智行 (2013) 下高井農林高等学校における特別支援教育の取組. 特別支援教育, (49), 32-35.
- 佐藤忍 (2008) 高校における特別支援教育. 教育, 58 (6), 19-22.
- 滋野哲秀 (2008) 特別でない「特別支援教育」. 月刊生徒指導, 38 (11), 30-31.
- 高貫学 (2010) 特別でない特別支援教育－つまずきのあるすべての生徒のために－. LD 研究, 19 (3), 244-246.
- 田部絢子 (2011) 高校における特別支援教育の動向と課題. 特殊教育学研究, 49 (3), 317-329.
- Tabe, A. and Takahashi, T. (2011) Difficulties in going to high school and needs of people with developmental disabilities and their parents: Particular comparison of pupil and public and private high schools. 東京学芸大学紀要. 総合教育科学系, 62, 2, 125-141.
- 高橋智・内野智之 (2008) 発達障害の本人調査にみる高校生活の困難とニーズ. 月刊生徒指導, 38 (11), 14-19.
- 高橋智・内野智之・田部絢子 (2009) 高校特別支援教育の課題. 月刊高校教育, 42 (1), 43-49.
- 高井麗子 (2007) 高等学校における特別支援教育の取り組み. 月刊高校教育, 40 (3), 42-48.
- 高木伸子 (2011) チャレンジスクール (高校) での成年への支援. 教育, 61 (11), 43-50.
- 高野陽介・泉真由子 (2014) 肢体不自由生徒の学校生活に対する高校教職員の意識調査. 日本特殊教育学会第 52 回大会発表論文集, P2-E-9.
- 谷口藤雄 (2009) 京都府北部の昼間定時制高校の取り組みから. 障害者問題研究, 36 (4), 46-51.
- 谷口藤雄 (2007) 高校において「特別支援教育」ってなんやろね?. 高校のひろば, 66, 49-53.
- 立石麻由子・高橋信雄 (2004) 通常の学校に学ぶ難聴高校生への支援. 日本特殊教育学会第 42 回大会発表論文集, P1-40.
- 寺園典人 (2007) 特別支援教育部の教育について. 特別支援教育研究, (603), 28-31.
- 上西祐子 (2013) 特別支援教育の観点から進める指導と支援. 特別支援教育, (49), 28-31.
- 上西祐子 (2010) 個別の支援から全体の支援へ－生徒の成長から学んだこと－. LD 研究, 19 (3), 234-236.
- 上好功 (2010) 高等専修学校における実践－個々のニーズに即した支援－. LD 研究, 19 (3), 237-240.
- 和井田節子 (2007) 高等学校での特別支援教育. 月刊生徒指導, 37 (1), 22-25.
- 山口比呂美 (2010) 高校における特別支援教育の取組と大学等への期待. 大学と学生, (81), 52-57.
- 喜井智章 (2007) 北海道道南地区高等学校における軽度発達障害のある生徒への支援に関する現状と課題－知的障害養護学校のセンター的機能に焦点をあてて－. 国立特殊教育総合研究所研究紀要, 34, 111-128.
- 米山伊織 (2012) 万場高等学校における「すべての人への支援」と「キャリア支援」の取組. 特別支援教育, (46), 40-43.